

Heroldo de HEL

N-ro41 aŭg-sept-okt, 1991

ORGANO DE
HOKKAJDA ESPERANTO-LIGO

北海道エスペラント連盟

001 札幌市北区北35条西9丁目3-1
エステート203 カワハラ方
電話 011-726-7590

HOKKAJDA ESPERANTO-LIGO
Hokkaidō, Sapporo-si, Kita-ku,
Kita 35 - Nisi 9, 3-1-203
KAWAHARA kata, J-001 Japanio

台風19号がはこんできた エスペラントの風

第55回北海道エスペラント大会/札幌/に66名が参加

37年前の洞爺丸台風なみの規模と進路の台風19号が北海道を通りぬけた9月28日、第55回北海道エスペラント大会は札幌で開幕した。台風がこの大会にエスペラントの風をはこんできた。参加者は66名(実参加39名)。台風のさなかでさえ、北海道の大空には緑星旗がよく似合った。

初日は14時から金森美子(札幌)伴奏による歌で始まり、出席者一同まずは口ならし。続いて馬場恵美子(札幌)司会の全員参加の1分間パフォーマンスに移った。パフォーマンスというよりスピーチが多かったなかで、樺山裕介(札幌)の宙返り、佐藤なみ子(札幌)の出口王仁三郎の短歌朗読、植木国雄(東京)の数学クイズなどがパフォーマンス的出し物として光った。

16時30分から今夏の各種行事参加者の報告会。ベルゲン世界大会の印象を馬場、金森、M. REZA

Kheir-Khah(イラン)、児玉広夫(札幌)が話したあと、山岸悦子(札幌)、宮沢直人(札幌)が吹田の日本大会、佐藤布美子(札幌)が亀岡での日韓青年セミナー、後藤丈次(札幌)がサンフランシスコ州立大学夏期セミナーのようすをそれぞれの思いをこめて話した。

夫妻で世界大会に参加した金森は、話のきっかけをつくるため、アルバムと歌集を持参した、大いに役立ち、友人をつくってきた、と世界大会初参加の「成果」を報告した。佐藤は、分科会の運営担当を依頼され無事こなしたと、食事付きと思って料理の分科会に出席したところ、ひたすら
(次ページにつづく)

大会参加申込み者には後日、大会報告書(参加者名簿付き)をお送りします。お待ちください。

北海道連盟事務局住所変更

北海道エスペラント連盟事務局の住所(連絡先)が10月から上記題字右のとおり、岩見沢市から札幌市に移転しました。なお電話は夜間のみお受けいたします。

今後のご連絡は新住所あてにくださいますようお願い申し上げます。

★★★本号主要目次★★★

第55回北海道大会(札幌)に66名が参加	1
北海道連盟新役員・連盟図書部から	3
エスペラント運動私史(7)山本昭二郎	4
肩の凝らないエスペラント語(4)高橋要一	6
読書ノートから 須藤昭三	7
Parolas Hokkajdo	おりこみ

食べ物について話す会だった、とユーモアをこめて日韓セミナーの印象を語った。

小雨のなか場所をかえての大懇親会には24名が出席、担当者の好みを反映してか、食べ放題飲み放題。佐々木将人（函館）の司会で進行、新田為男（由仁）の乾杯の発声のあと歓談が続き、須藤昭三（室蘭）のおひらきの乾杯発声まで、なごやかな2時間だった。連盟委員と宿泊者はふたたび大会会場の北海道高校教職員センターへもどり、同所では91年第4回連盟委員会がひらかれた。

大会2日目の9月29日は台風一過、札幌はさわやかな秋空でおおわれていた。台風で前日は札幌に近づけなかった桜居甚吉（岩内）はじめ、あらたな参加者が朝から会場に到着した。

9時30分すぎから小会議室で REZA 講師の市民向け速成講座がひらかれた。新聞告知、クチコミであつまった受講者は5名。星田文子（苫小牧）の通訳を交え約2時間の講座だった。

10時04分、開会式。佐藤布美子が開会を宣言、金森伴奏で“La Espero” 斉唱のあと、北海道エスペラント連盟委員長・星田淳（苫小牧）があいさつ、（財）日本エスペラント学会（J E I）総務部長・植木国雄が J E I からの大会へのメッセージを読あげた。再建された函館エスペラント会（岩井正久）、東北エスペラント連盟、第79回日本大会（92年、宮城県松島町）組織委員会、関東エスペラント連盟、J E I 広報部長・ヤマサキセイコーから大会に寄せられたメッセージがカワハラ・カズヤ（札幌）によって代読されたあと、北海道エスペラント連盟総会が開催された。

大会（総会）議長団には小林貴美子、坂下正幸（いずれも札幌）が選出された。

総会ではまず、渡辺晋道事務局長（岩見沢）が連盟活動・次年度事業について、阿部映子会計委員（札幌）が連盟会計について報告した。また昨年の総会からの討議事項になっている大会と連盟

のエスペラント表記に関連して、星田淳委員長が「今総会で結論を急がず、引きつづき会員の研究・討論を継続しよう」との委員会見解を報告した。以上の報告すべては承認された。

次に、星田淳委員長が「北海道エスペラント連盟創立60周年記念行事計画」と提案した。来年の連盟「還歴」を記念する事業の骨子は、

①1992年の適当な時期に札幌で記念大会を開く。1932年8月の第1回連盟創立大会の地・富良野市山部（当時の空知郡山部村）では多くの人を集めるには不便と思われる。第1回大会参加者で健在が確認されている6氏には記念大会出席を招請し、出席できなくてもメッセージを依頼する。

②一般向け講演会をひらく。

③北海道エスペラント「運動年表」を作成する。「運動史」出版は将来の目標とし、現在出来るものとして「年表」をつくろう。年表には北海道エスペラント運動物故者一覧を収録する。

④長年連盟を支えてきた運動功労者を表彰する。一応30年以上の運動歴を基準と考える。

上記の「記念行事計画」は、児玉広夫からの提案（記念大会の開催日を「松島の日本大会の1週間後」を「適切な時期」に変更する）をとりいれ承認された。

議事の最後に連盟役員改選があり、議長団から前期委員会からの推薦リストが提案され、他に被推薦者がなく、リストどおり選出された。

午後は、M. REZA 講師による一般市民向け公開講演会（『イラン人から見た世界』）の予定だったが、一般市民の聴衆がいなかったため急拠、エスペランチスト向けの、REZA 撮影・解説の「世界大会・日本大会ビデオ」鑑賞会（通訳付き）となった。急拠変更しようが、エスペランチストだけなのに通訳ありだろうが、こまかいことにこだわらないのが北海道人の気質なのである。

（カワハラ・カズヤ）

北海道エスペラント連盟委員会

星田 淳 (委員長、苫小牧エス会)

カワハラ・カズヤ (事務局長、図書部長兼務、
SAT-ana Grupo en Sapporo)

阿部 映子 (会計委員兼務、札幌エス会)

岩井 正久 (函館エス会)

児玉 広夫 (札幌エス会)

須藤 昭三 (室蘭エス会)

馬場恵美子 (機関誌編集長、札幌エス会)

浜田 国貞 (新得・個人会員)

横畠 君枝 (北見・個人会員)

渡辺 晋道 (通信教育部長、岩見沢・個人会員)

委員会の構成は前期と同じ。委員会内の担当で、前事務局長の渡辺が新設の通信教育部長に、図書部長のカワハラが事務局長に移動し、同部長を兼務する。委員長の星田、会計委員兼務の阿部、機関誌編集長の馬場は留任。

なお事務局長交代にともない、連盟事務局住所 (連絡先) も岩見沢市の渡辺方から札幌市のカワハラ方にかわった (1面題字右参照)。

北海道エスペラント連盟会計監査

大友 鞆一 (札幌エス会)

金森 美子 (新任、札幌エス会)

北海道エスペラント連盟 顧問

江口 音吉 (小樽エスペラント協会)

木村喜壬治 (札幌エスペラント会)

新田 為男 (由仁・個人会員)

吉原正八郎 (札幌エスペラント会)

顧問4氏はこれまでと同じ。ひきつづき連盟へのご指導、ご鞭達をおねがひした。

電話一本 図書直送!

北海道連盟図書部の図書直送サービスです。在庫の書籍にかぎり、電話をいただければ、翌日に発送します。 **会員には送料無料**。

書店やJ E Iへの注文より早く、お手元に届きます。ただ、種類が少ないのが難点ですが。

(☆日本語書き、★E書き。他にも在庫あり、お気軽にお問い合わせください)

★Nova Esperanta Krestomatia 509p, 91年新刊, 4800円。Fundamenta Krestomatia から88年、現代にふさわしい新しい『模範文集』。読書の秋に時間をかけて精読するに値する一冊だそうです。

☆改訂版はじめてのエスペラント文通 (丸山幸男) 106p, 90年, 800円。文通案内、文例集。

★☆エスペランティストのための国際文通入門 (菊島和子) 167p, 89年, 800円。日エス対訳。国際文通の基礎知識、なによりも心をおしえてくれる。

☆La Unua Kursolibro (サカモト・ショージ) 紙上講座・講師用手引きの3冊セット, 91年, 1800円。あのなつかしい La Teksto Unua にかわる同著者による新講習用書。3冊セットなので一人でもなまべます。これがあればあなたも講師に。

★La Komunista Manifesto 48p, 250円。48年ナウカ社版の私家製コピー・ホチキス綴じ。「崩壊」しようが「解散」しようが、わが信ずる道を行こうというあなたとわたしにおくります。

★Kantoj Karmemoraĵ 61p, 85年, 900円。日本の童謡、世界の民謡、だれでも口ずさんだことのある歌のエスペラント訳歌集。全53曲楽譜つき。ふるさと、からたちの花、城ヶ島の雨、学生時代、こんには赤ちゃん、野ばら、アーニー・ローリー……ほら、歌ったことあるでしょ。

ご注文、お問い合わせのお電話はは下記まで、
011-726-7590 (夜) カワハラ・カズヤ
代金は図書到着後、郵便振替でお送り下さい。
連盟図書部 小樽 3-14762 Librejo Hokkaido

私のエスペラント交友録

小樽 山本昭二郎

テレビをみていたら、小樽の坂の紹介があって、小樽商大手前のやや急な坂を地獄坂と説明していた。国道5号線の小樽駅横から始まり小樽商大に至るこの坂は大きくジグザグしていて、最初の直線は警察署、裁判所、法務局、税務署、病院などがあり、最後は寺となっていて、恐ろしいところが次々と並んでいるから地獄坂と名づけられた、と私は記憶している。これは小樽人のユーモアである。

小林 司（朝日賀昇）さん

今から8年前、テレビのチャンネルをNHK教育に回したところ、見たような顔の人が写っていた。その番組はシャーロック・ホームズの作者・コナン・ドイルについての分析、考察というテーマで、解説は小林司とある。字幕がないと私には判らないのだが、黒板が背景にあっていろいろ書いてあるので、私にもおおよそが判った。小林さんはホームズ研究家としてつとに有名で、この時はドイルのことを、薬学の知識Aクラス、精神分析（推理）の能力Aクラスなどと解説していた。毎年の年賀状には、去年はこんな本を出しました、今年はどういう本を出すつもりです、と書いてあるからそのことは私も知っていた。朝日賀昇は小林さんのエスペラント界でのペンネームである。

翌年7月だと思う。電話がきたので、edzinoが受話器をとってみると、東京の小林さんからで、いま小樽に着ている、家族同伴の取材旅行で、すでに道内を一周してきたが、なつかしいので山本さんに会いたい、というのだ。それで私宅への道

順を説明し、今夜はこちらに泊りなさい、とすすめた。小一時間して小林さん一家の車が来たが、大きな河馬みみたいな黒い乗用車、ボンゴ車とでもいうのだろうか。私は車の種類はさっぱり判らない。なにしろ免許がとれないので。

一行は若い奥さん、娘さん（小1）、義母さんと彼の4人。まったく久しぶりで30年ぶりの握手だった。ちょうど北海道のいちばん良い季節で、ラベンダーの十勝や、網走、石狩を周ってきたとのこと。小樽には1日半滞在し、明日は札幌駅でシャーロキアンと合流するという。小樽では既に旭展望台にのぼって有名な小林多喜二のデスマスクの青銅像とみてきたが、多喜二の取材もしたいというので、墓のある奥沢墓地に案内した。

多喜二の墓と私の親の墓とは20年くらいしか離れていない。小樽には多喜二の縁者がいなくて、毎年のお盆に墓参する人もなかったようである。お墓は多喜二自身が建立したもので、墓石の裏に「昭和五年六月二日建立」とある。これを建ててから3年後の1933年2月20日、東京・築地警察署で特高警察に虐殺された。年齢僅か29歳とは、残念でならない。最近が多喜二祭というのが毎年行なわれるようになった。真冬の命日に、深い雪を漕いで有志がお墓を掃除し墓前祭を行なう。翌日は講演会などがあり、多喜二を偲ぶ夕べ、となっている。

歴史的建造物として知られる日本銀行小樽支店の真向いに小樽文学館があり、多喜二関係の色々な資料が展示されている。展示資料を小林さんはカメラでパチパチ撮影していたが、便利なものだな、と私はその取材ぶりに見とれていた。この文

学館から海岸に向かい 150歩歩いた十字路の向こう側に昔の北海道拓殖銀行小樽支店の建物がある。多喜二が勤務した銀行で、今はホテルとレストランになっているが、高級で、財布の軽い私にはちよっと入れない。

晩になってからいろいろ話をきいたが、小林さんはシャーロック・ホームズクラブという会を主宰していて、会員は 800名?とか。熱狂的なシャーロキアンが情報を寄せたり、寄稿したりで、それでたちまち小冊子になり、会員に頒布している。では小林さんが会長かと思ったら、会長はいなくて彼が主宰しているのだという。つまり、読者がつくる冊子、ファンクラブという次第。わが北海道エスペラント連盟にもホームズ愛好家がおられるようだが、このクラブの anoかどうか、判らない。この時、クラブの規約をもらったが、すぐ入会はしなかった。久しぶりにホームズ全集を読んでみようか、そしてそれから、と思ったからである。

ちょうど私宅に白い灰皿があり、これはイギリス旅行をした私の娘が土産にくれたもので、象牙色の灰皿に黒のペン画風のカットが刷り込んであり、“SHERLOCK HOMES PUB”の看板の字も見える。小林さんは、どうしてこれを? ときくので、娘がそのパブに旅行者一行と入ったと説明した。当時、大学3年の娘はすでに海外旅行をしたので不安はなかった。このイギリス旅行では、北はネス湖まで足をのぼし、より強健になるおまじないとしてネス湖の水も一口、二口飲んだ、と笑っていた。

翌年、私の長女一家4人が仙台から所沢に転居したので、私たち夫婦で新居を訪ねた。その折、練馬区の小林さんに電話したところ、ぜひ寄ってほしい、という。それで、6人で西武池袋線大泉学園駅に下車したところ、奥さんが迎えに来られていた。駅前に駐車出来ず、だいたい歩いてやっ

かのボンゴ車に乗ったが、小林さんの運転する道順は複雑で、もう思い出せない。明日はこの車でどこにでも案内します、ただし都心だけは渋滞がひどくて駄目です、とのこと。

義母さんと小2の娘さんも在宅で、昼飯に手巻きずしをご馳走になった。蔵書が3万冊もあるときいていたので、つくづく眺め渡したところ大部分が専門書(小林さんの本職は医師)で、部屋に入り切らないので階段の壁も書棚になっている。書斎には禁煙の貼り紙があり、もう一枚なにやら貼ってあるのでよく見たら、ザメンホフの肖像画。これは私が小樽で LEONTODO を発行し始めた頃、製版・印刷が楽しかったので B5 の大きさに黒一色で謄写印刷したものである。ザメンホフ博士が緑星バッジを胸にタキシードを着用したもので、名刺大の原画を木製の拡大器で拡大したもので、この肖像画は読者サービスに 100枚ほどザラ紙に刷ったが、謄写印刷のつぶし特有の網目があって面白い。最近コピー店でコピーしてみたが網目がなくて失望した。

小林司さんとの交友も40年と長い。今こうしてともに60歳台になり、会えば、やあどうしてる? とまるで小学校のクラス会のような。若いとき共通のものを持ち、一緒にたたかった kamarado、samideano である。私のような一介の身障の若者にへだてなく接してくれて有難いと何回も思った。

1953年、初めて東京で会った時、記念にと『寡婦マルタ』の日本語訳をもらった。その後、カフカの『変身』を、面白いよ、と紹介され読んだのだが、田舎者の私にはこういう本があることすら知らず、カルチャーショックを受けた。かねがね私は井伏鱒二の『山椒魚』の主人公が私自身であるような気がして身につまされていた。今度はこの『変身』の主人公ザムザは、まさに私自身ではないか、と読み終えて思った。

(91, sept, 21) つづく

肩の凝らない

エスペラント語

(4) 高橋 要一

近頃「〇〇友好の船」といった類の企画が多い。見聞をひろめる意味で結構なことだ。だが引率者のあとにゴロゴロ (anasvice) ついて、キョロキョロ (malaplombe) 歩くだけでは意味がない。現地の人と身振り手振りで話したといっても、それだけのことだ。せめて英語で用が足りるようになってほしい、と放言した外国人がいたと新聞で読んだが、もっての外である。友好の船でも出発前に相当期間、行先の国の言葉を特訓してほしい。

エスペランチストの世界大会ではどうだろうか。エスペラント語の単語の乱発でも結構楽しんでいよう。日本へ来たなら何処でもエスペラント語で用が足りると思わせるようにしたい。努力次第でそのような日の来るのも夢ではない。

<22>つくづく (全く) *komplete*; (よくよく) *kontemple*; (さびしく) *malgaje*; *sol-ece*; *melankolie*

☆つくづくこの世がいやになった *La mondo min tedis komplete.*

☆つくづく恥かしいと思っている *Mi tut-kore hontas.*

☆よくよく考えた末に *post sufiĉe profunda konsidero*

<23>大ざっぱ *malpreciza*; *maldetala*; *proksimuma*

☆大ざっぱに言うとね *se mi diras mal-precize*

☆大ざっぱなところ千円かった *Mi devis pagi proksimume 1,000 enojn.*

<24>泥縄 (姑息な) *paliativa*

☆それでは泥縄だよ *Tia maniero estas nur paliativo.*

☆泥縄式の *paliativa*

☆泥縄式手段 *paliativo*

<25>図々しい *senhonta*; *impertinenta*; *aroganta*; *aŭdaca*; *aplombaĉa*

☆あいつは図々しい *Li estas senhonta.*

☆まあ図々しい *Kia aroganteco!; Kiel senhonte!; Kiel aplombe!*

<26>無責任な *senrespondeca*; *senresponda*

☆この事件については私に責任はない *Mi havas nenian respondecon pri tiu afero.*

☆奴は全く無責任だ (責任をないがしろにする) *Li sentas nenian respondecon.*

☆無責任な約束 *facilanime farita promeso*

☆およそ無責任な男だ *Al li tute mankas la devsentto.*

<27>無駄 *senutileco*; *van(ec)o*; (損失) *perdo*; (無駄な) *senutila*; *vana*; *sen-cela*

☆無駄に血を流す *senutile versi sangon*

☆無駄足を踏む *iri vane*

☆無駄骨を折る *vane klopori*

☆無駄飯を食う *vivi senlabore*

☆長年無駄飯を食ってきたのではない *Mi ne vane konsumis miajn jarojn.*

<28>はやしたてる (ほめる) *aplaŭdi*; *aklami*; (あざける) *primoki*; *mokfajfi*

<29>からかう *alŝerci*; *mokŝerci*; *ŝercmoki*; *petolinciti*

<30>よんどころのない *neevitebla*; *necesa*; *devigata*; (よんどころなく) *neeviteble*; *devigate*; *malvolonte*; *pretervole*; *malgraŭvole*; *vole-nevole*

読書ノートから

須藤 昭三

"Siberio en neño"

Kurosima denzi 著 Miyamoto masao 訳

(京都, 1982年刊, 87p. 1,200円)

エスペラントを学んでよかったことの一つに、良い小説との出会い(著者との出会いと言うべきか)である。この種の小説を読む人ももう少ないのではないかと、ふと思ったりする。もちろん原書は日本語であるからその気になれば読めるだろうが、簡単には人の目につかないだろう。私は、読んでよかった、としみじみ思っている。私がエスペランティストでなければ私の目に触れずに過ぎてしまったものだから。

「シベリヤ出兵の経験から書かれた3編の反戦小説」というカタログの紹介も、この本を手にした理由の一つかも知れない。私が生れた前年にこの小説は書かれている。それは遠い時代なのかも知れない。しかし昔も今も兵隊たちは虫けらのように死んでいった。シベリヤ出兵について書かれている本を探した。

岩波新書・井上清著『日本の歴史』(下)、「列強のロシア革命干渉と日本のシベリヤ出兵」の項に――英、仏、日、米を先頭に、世界の13ヶ国が、四方から幼い革命ロシアにおそいかかった。ツァーリの多年の虐政と4年に及ぶ大戦で荒廃しきったロシアには、食料も衣料も燃料もきわめて少なかった。その上に反革命と帝国主義の干渉で、社会主義は危機にひんした。しかし、ボルシェヴィキの指導の下、ロシアの労働者と農民は、革命をまもって戦いつづけた。(略)日本軍だけが、さまざまの口実をもうけてなおも干渉をつづ

けたが、干渉をつづければつづけるほど、敗北を重ね、ついに1922年6月、干渉諸国の中でもっともみじめな状態でシベリヤを撤退せねばならなかった――とある。当時の時代背景である。

あとがきに、著者クロシマ デンジ(1898-1943)は神戸港のすぐ南に位置する小豆島に貧しい農家の長男として生まれ、大ロシア革命の直後の侵略出兵に看護兵(衛生兵?)として派遣され、シベリヤでの結核で亡くなった、とある。

『烏が渦を巻いて群がる』――同じ女のところで大隊長とかち会った二人の兵隊が、その隊長の嫉みで自分の中隊ごとに行くはずでなかった前線の守備隊に派遣される。途中、道に迷ったこの中隊は疲れと寒さで全滅する。

『そり』――御用商人に馭者つきで借り上げられたロシア人のそりが将校と兵隊を乗せて一路前線へ。途中、敵に襲われ、兵隊たちが降りた途端にそりは一目散に逃げ帰る。兵隊の一人が“俺たちが止めれば戦いは終わるんだ”と言っていちじ騒然となるが、その兵隊と病気の兵隊が後ろから将校に銃殺される。

『雪のシベリヤ』――真面目に勤務したばかりに重宝がられ帰国を延ばされた二人の兵隊の話。レヴォルヴァを手にも軍医長を追い回したり、3日もロシア人の家に泊まって帰らなかった兵隊が故国へ帰れた。この二人は、やけになって毎日雪の山へ兎狩りに出かけ、ついにゲリラに捕えられ斥候と間違えられ裸にされ、逃げる後ろから撃たれる。“だから危険な場所に行くなと言ったのに”と責任逃れを言う上官には“あのとき帰しておけばこんなことにならなかった”という発想はけっして出来なかった。

挿絵がユーモラスなので悲しい物語を読む心をいくばくか慰めてくれる。

(室蘭エスペラント会)

北海道エスペラント連盟加盟の
地方会・団体一覧 及び地域連絡先

- ★函館エスペラント会 (代表・岩井正久)
〒041 函館市美原4-12-16 ☎0138-46-1900
- ★室蘭エスペラント会(代表・須藤昭三)
〒050 室蘭市高砂町2-20-3 高砂ハイツA201
☎0143-45-6018
- ★小樽エスペラント協会 (代表・江口音吉)
〒047 小樽市奥沢1-24-21 ☎0134-34-0667
- ★札幌エスペラント会 (代表・児玉広夫)
〒060 札幌市中央区大通西12宮井康夫司法書士
事務所気付
- ★SAT-ana Grupo en Sapporo(代表・宮沢直人)
〒001 札幌市北区麻生町1-3-13☎011-717-4189
- ★苫小牧エスペラント会(代表・星田淳)
〒053 苫小牧市糸井393-83 ☎0144-74-2539
- ☆オホーツク海沿岸地域(連絡先・横島君枝)
〒090 北見市美芳町9-2-18ファミール緑園102
☎0157-31-8233

★札幌エスペラント会から★

10月の入門講習は人数の関係から11月に再度募集することとなりました。ところが新聞の掲載記事から思いがけない反応。浜益中学校の先生から連絡があり学校祭の演劇に使うためにエスペラントの旗と歌に関して照会がありました。歌に関してはカセットテープを送りその後の経過について連絡を取ってみようと思っています。新聞の掲載については講習会の募集ばかりではなく広告と言った意味でもなかなか有効であるようです。11月の入門講座については北海道クリスチャンセンター・ホレンコでおこないます。身近に興味のある方がいたら声を掛けてください。(宮岸)

SALATO

★'89年11月から鳥取大学に赴任している切替英雄(元北海道連盟事務局長)が、91年4月1日付で札幌の北海学園大学に転任となる。北海道に戻ってきて、やっと本職のアイヌ語研究に専念できるか。
★切替夫人の真知子さんは昨年鳥取大に学士入学したため何年かは“単身赴任”になるという悲惨な家庭環境ではあるが、力づよい味方が帰ってくる。
★佐藤みはるさんが10月5日亀岡市で挙式されました。お相手は津本信さんで大本教が縁で知りあったとのこと。京都で新生活となりますがエスペラントは必ず続けますとのこと。
★西里静彦さん(札幌生まれ、現在カナダ国籍)久しぶりに連絡がありSES講習会に顔をだしたいとのこと。

★ハバロフスクに住むウクライナ人 esp-isto G. Turkov は日本古典研究家。最近芭蕉の俳句の訳本を出し送ってきたが、ウクライナ語では解説文の一部が見当つくだけ。なかなかやる人もいますのです。カンパチアの経理学校エスペラントグループとの文通が6月から始まり gvidanto, studentinoからも手紙や写真が来ています。今度カンパチアは平和回復のニュース。おめでとう。(AH)

☆佐藤みはるさんに祝電を打つにあたり字上符の無い単語を選んでエス文を作る。電子郵便の手もあったのだが。(Be)

★ Heroldo de HEL

第41号 (1991, aüg-sepe-okt)

北海道エスペラント連盟機関誌 年6回

編集部:〒001札幌市北区新琴似7-8-5-34

馬場恵美子気付☎011-761-8060

郵便振替口座: 小樽 0-17075

北海道エスペラント連盟

Paĝoj por amikoj en la mondo el Heroldo de HEL

Eldonas Hokkajda Esperanto-Ligo: Sapporo-si, Kita-ku,
Kita 35- Nisi 9, 3-1-203 KAWAHARA kata, J-001 Japanio

La 55-a Kongreso de
E-istoj en Hokkajdo

La 28/29-an de septembro en Sapporo, ĉefurbo de Hokkajdo, okazis la 55-a Kongreso de E-istoj en Hokkajdo, en kiu sesdek ses samideanoj el la regiono k.a. partoj de la lando partoprenis k ĝuis la renkontiĝon esperante kaj krokodile.

En la kongreso partoprenis ankaŭ irana s-ano M.REZA Kheir-Khah, kiu nun loĝas en Japanio. Li gvidis en ĝi Rapidan Kurson de nia lingvo por civitanoj kaj por kongresanoj prezentis vidbendon, kiun li filmis en ĉi-jara Universala Kongreso en Bergeno, Norvegio. Lia prezentado kun spritaj komentoj alportis al la ĉeestantoj etoson de supernacia interkomunikado per nia lingvo.

Nia E-Ligo celebros la 60-an datrevenon de sia fondiĝo en la somero de 1992. La kongreso lanĉis entreprenon por la datreveno iom fierinda pro tiu sufiĉe longa historio.

El suba, presteknike malklara foto la kongresanoj salutas vin.

(Kk)



Raportas E-Societo de
Tomakomai

En nuna stadio la plej grava agado de ni esperantistoj estas informado pri nia afero al publiko, kaj multigi lernantojn. En la pasinta jaro 1990 ni ne povis havi bonan rikolton, ĉar ni ne akiris novan membron al nia grupo. Ni planis havi kurson, sed bedaŭrinde ni trovis neniun. Tamen en '91 ni sukcesis! Kvankam ne multaj, sed ne null!

Jam multajn jarojn ni kunsidas en Civitana Domo (Koominkan) trifoje en monato, vespere de lundo (18-21a h). Tie ni havas elementan kaj (aŭ) duagradan kurson laŭ la konsisto de la ĉeestantoj, aŭ aparte aŭ paralele.

En la lasta junio ni komencis elementan kurson, kiun vizitas du, unu komencantino kaj unu rekomencanto. En la unua kunsido, do vespere de la 17a de junio, feliĉe ni havis alilandan gaston, S-ron Hylco MIEDEMA kun sia japana edzino MATU-MOTO Hiroyo, kiuj montris al ni bonan ekzemplon de interparolado kaj esperantista etoson. Ili loĝis ĉe HOŜIDA du noktojn, vizitis Lagon Sikocu kaj forvojaĝis al Sapporo k.a.

Ĉiujare en somero la kulturaj grupoj ĉe la Civitana Domo havas t.n. Festivalon (Koominkan-macuri). Kiel kutime ni partoprenis ĝin per Ekspozicio, kie oni povis vidi, kiel ni utiligas nian lingvon por kontakutiĝi kun gesamideanoj en la mondo nun rapide ŝanĝiganta. Ĉifoje

ni ĉefe prezentis la leterojn kaj sendaĵojn el nun ĝermantaj grupoj de aziaj landoj kaj el Sovetunio nun spertanta gravajn socipolitikajn ŝanĝojn. Dum la periodo (22-25/aŭg.) vizitis ĝin 1,290, same kiel en la ĝismunaj, oni kalkulas.

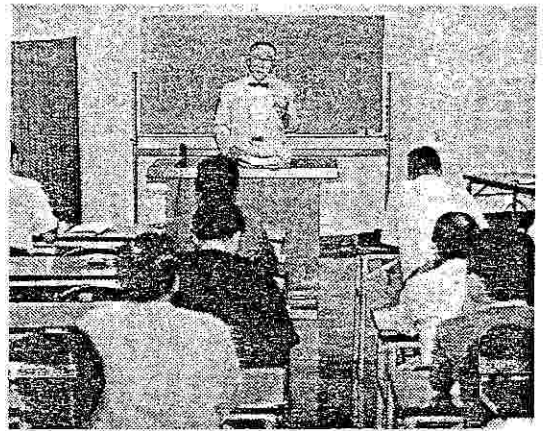
(Acuŝi HOŜIDA)

Observu la Pac-principon de la Japana Konstitucio

Jam pasis kvardek ses jaroj post la malvenko de japana militismo kaj la Venko de kontraŭmilita tendaro de Azio kaj la mondo.

Kvankam tuj post la malvenko japano ĵuris per la Artikolo Naŭa de la Konstitucio, ke ni havu nian armeon en estonto, nun kreskado de japana militpotenco estas senlima kaj ĝi gvatas denove aperigi sin kiel "Mastro"-n de Azio. Konfesante dirite, japanoj ne povis efike bari tiun kreskadon dum kvardek jaroj kaj konscie-senkonscie permesis la registaron sofismumi, ke la artikolo ne neas eĉ defendrajton de ŝtato, tial Defendkorpuso (oni nun nomas la japanan armeon tiele) estas tute laŭkonstitucia.

Dum japanoj inerte lasas nunan situacion, kiu ankoraŭfoje kondukos aziajn popolojn kaj japanojn mem al la nova sojlo de nigra estonteco, aziaj popoloj ĝuste travidas per

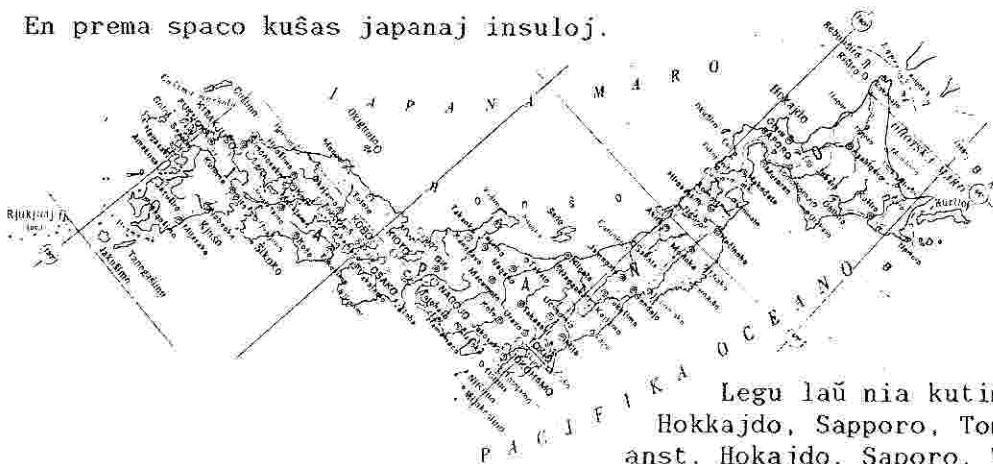


siaj spertoj la esencon de la situacio. Sed sciuj, ke viglas neinertaj japanoj, kiuj persiste rezistas kontraŭ la nigra estonteco, en diversaj kampoj de la lando, per propraj manieroj.

La 15-an de aŭgusto, tagon de la malvenko de japanmilitismo, ĉi tridek civitanoj apartenantaj al tiuj neinertuloj havis kunvenon en Sapporo por pripensi kaj diskuti pri la pac-principo de la Konstitucio. En ĝi YOSIHARA Syôhatirô, advokato kaj honora membro de la komitato de Hokkajda E-Ligo, prelegis kaj emfazis neceson de rigora observo de la pac-principo. Vidu la foton el tagĵurnalo Hokkaidô-sinbun, kie prelegis YOSIHARA, energia Esperantisto-Pac batalanto!

(Kk)

En prema spaco kuŝas japanaj insuloj.



H E L 通 信

HOKKAJDA ESPERANTO-LIGO

Februaro, 1992

北海道エスペラント連盟

001札幌市北区北35条西9丁目3-1エステート203 カワハラ 方
Sapporo-si, kitaku, kita-35, nisi-9,

3-1-203 KAWAHARA -Kata,

001 Japanio

<Heroldo de HEL発行延期について> 編集体制の移行により Heroldo de HELの発行が遅れて迷惑をおかけしています。最新ニュース版としてHEL通信を作成しました。41号の発行に向けて努力しておりますのでうしろさくお持ちください。(編集部 馬場)

活発な発言、前向きな討議

札幌エスペラント会 (SES) 総会開く

1月25日15時30分よりクリスチャンセンターにて

「この頃あまり集りがよくないし、何人集まるやらー」との話で、ちょっと心配したが、ふたを開けてみると19人。運動の現状や見通しについて今までになく真剣な話し合いが行われた。報告、議事の要点は次の通り。

★皆で歌おうSESの歌： S-ro相沢の遺品の歌集にあったこの歌は昭和の初め頃の先輩が残してくれたもの(原譜は混声4部)。会合の機会に練習しましょう。

★劇団「ハリケーン」、「緑の星の下に」を再演： 88年の日本大会の感激を再び！
やまびこ座にて。

★現在の学習会： (ア) 祝日、5週目を除く土曜日13.30-16.30, テキスト (Gerda malaperis!) など、札幌市職員会館にて。(イ) 第2、4月曜日13-17時、「伊豆の踊り子」など、札幌市職員会館。(ウ) 毎土曜日13.30-15.30, La Unua Kurslibro, ホレンコ事務所。

★SAT-ana Grupo報告 (S-ano宮沢)： *Pasporta Servoに Teheranから手紙があり、イラン青年2人2月末頃来たいとのこと。 *SAT-anojのまわりにいるKomencantoj, interesatojでRondo esperanto 結成。 *Kawahara petis min transdoni al vi ĉiuj sian saluton kaj pardoupeton pro sia malsano k.a. *ひらひら(喫茶店、北区北18西5)のエスペラントコーナーに置いた独習書知らぬ間に4、5冊売れている。「夢中船」(パンフレット)なども置きたい。

★会計報告： 年度内の収入と支出はほぼバランスし、繰り越し分や定期預金など余裕もある。

★その他(話し合い)： -BergenのUK、東南アジアからもかなりの参加者があり、盛んになった感だ。 -UEAの参加助成の効果もあるようだ。 -東欧ソ連で結構盛んだったエスペラントの今後は？ -西側との間の壁にあいていたいくつかの窓のひとつがエスペラントだったという状況は、壁の崩壊と共になくなった。直接西欧と付き合うための外国語学習は盛んになるだろう。国際交流の言語としてのエスペラントの実用を我々が進めなければこの状況は変わらない。 -San Franciscoの夏季講座で聞いたが、ポーランドではエスペラントによってciceronoの養成を半年かけてやりヨーロッパで働けるようにしている。体制の変化はあったが、この教育は続いている。 -図書館にエスペラント関係の本がない。昨年の大会記念品(地球時代の言葉エスペラント)はどれだけ入ったか。 -図書館に「希望図書」を書いて出すのは効果がある。 -自分の出身校に寄付するのもいい。 -「ひらひら」で売れた話があったが、目につく所がないと、誰も読みも買いもしない。・・・など具体的に「何をなすべきか？」が論じられたのは収穫だった。

[Resumo esperanta]

De 15.30 en la 25a de januaro okazis la ĝenerala kunsido de Sapporo Esperanto-Societo en Hokkajda Kristana Centro. Oni raportis pri la "Kanto de SES", teatrogrupo, kiu ludos "Sub la Verda Standardo" refoje en Sapporo, studkunsidoj kaj societa kazo nun riĉa. Sekvis diskutoj pri azia movado, situacio en eks-socialismaj landoj, efikaj rimedoj por informi nian aferon.

R a p o r t o

苫小牧

《ザメンホフ祭》12月18日18時より市内居酒屋の2階を借りて星田夫妻、末沢・柴田両氏、大山口の5人が集い毎年定着となったザメンホフ祭を行った。会場には数々の料理、アルコールの並ぶなか、壁にはひときは大きな「緑星旗」をかかげ、ザメンホフ先生を讃えての『Tosto!』、内容は星田先生により国内E会の近況報告をはじめ、皆さん多いに語りそして歌あり記念撮影あり。特に国際情勢の話題になると皆熱弁となり『今後の推移は国際協調の急速化とそしてUnu Lingvo!がなくてはならない』の結論となった。当初20時の閉会が21時過ぎとなり皆、外の寒さを忘れるほどのザメンホフ祭であった。(大山口 誠)

《新年会》1月19日18時、星田氏宅において苫エス会員の新年宴会を開催した。集合人数7人、La-Esperoの合唱で始まり、お互いの健康と今後の活動を祈念して乾杯、飲み物、食べ物はおいしく、談論風発、楽しく有意義な一日でした。苫エス会の旗が掲示されていましたがそのくすんだ色を見た時、苫エス会がたどった歴史が思い出されて感慨無量のものがありました。(鉄沢 邦夫)

禾

札幌

《木村氏短歌コンクール入賞》毎年2月札幌雪祭り協賛としてNHKが短歌コンクールを実施。今回応募作品約3,000首のうち入選作品十七首が発表され、その中に木村喜壬治さんも選ばれた。

待遊豪ほりし鶴橋つつがなき

老いの手にあり雪を割つぐ

2月11日ホールでの受賞式後の懇親会で木村さんが並み居る参列者に『自分の一番の生き甲斐は、エスペラントの普及にある』と言及されたとか。

(児玉 広夫)

演劇「緑の星のもとに」(岡一太作) 再び札幌市民向けに公演!

Ili reludos la dramon "Sub la verda stelo"

1988年8月20-21日、第75回日本エスペラント大会を札幌で開催した折、一般市民向け公開番組として、アマチュア学生劇団「ハリケーン」(札幌市立平岸中学校演劇部OB9人の高校生)が、同校教諭の仲野嘉信先生指導のもとで、迫力溢れる演劇を披露し、深い感銘を与えたことは、いまだ記憶に新しきことであろう。

あれから3年6ヶ月が過ぎて、当時の高校生も今は大学生または社会人、また仲野嘉信先生も現在、札幌市立月寒中学校の教諭として活躍、それぞれ離ればなれになっていると思いきや、あの時の堅い結び付きがずっと続いて、『わが青春の思い出に、もう一度「緑の星のもとに」を公開公演しよう!』と意見が一致し、練習を再会することになった。

この春の開演を目指し、納得のできるまで登場人物を見詰め直して行こうとしている。『ザメンホフについても、もっと知る必要が或るのではないだろうか?』と仲野先生。

場所は札幌市立こどもの劇場「やまびこ座」を予定している。(札幌市東区北27条東15丁目、地下鉄東豊線元町駅下車)

われわれもまた、こうした企画に心から賛同の拍手を送りたい。そして再び新鮮で感動的な若者たちの演出を観覧したい。そのためにも、出来るだけ大勢の人が参加できるよう、友人、知人に誘いかけようではないか。

(児玉 広夫)

新年音楽会

～新聞掲載記事より(1月16日朝日新聞朝刊)～

テト(旧正月=今年は2月4日)が正月祝の本番とされるベトナムでは、太陽暦の元日はただの休日だが、日本人の私としては習い性の慶正月、ひたすら舞宴を楽しんでいるところを、若い女性の来訪で促された。

エスペラント・ビジネス・センターの新年室内楽コンサートへの招待だった。翌日の夜、ホアンキエム舞踊の会場へ、主催者提供のシャンパンを味わいながら、ハノイ音楽院生四人による演奏を聴いた。全十曲、中年向きのかい曲が次々と奏でられた。曲目選定といい、わざわざ招待状を届けに来る専業主婦さとい、一昔前に戻ったような気がした。

だから古いか、「いや、わが国の自力近代化はここから」と、ハノイ生れの知人はいう。先輩国日本と同じように知的・文化的蓄積の手廻りを急いで踏む、と。

音楽会を催したエスペラント学生たちは、商売の面でも市場経済化の波に乗って、ハノイ随一のホテルを経営し、諸外国に合衆を呼びかけるなど活躍している。なるほど。(井川 一久)

*提供を協力してくださるのは豊蔵正吾さんです。これからもどんな小さな記事でも結構ですのでご連絡下さい。

★「戦争に反対した人たちがいた」(札幌朝日新聞) 40ページ以上にわたる証言の中で、桑原一さんが反戦エスペラントチストとして弾圧された経験を語っている。1月25日「掘る会」の例会では、現在活動中のエスペラントチスト2名が参加し、発言した。桑原さんは例会の最後にエスペラント語で「インターナショナル」を歌った。

“Sensō ni hantai sita hito ga ita”(Troviĝis homoj kontraŭ la milito) eldonejo: Sapporo kyōdo o horukai (Esplora societo pri hejmloka historio en Sapporo) En tiu libro, KUWABARA Hazime kiu estis esperantisto kontraŭ la milito, skribis pri lia movado kaj subpremo de policanoj.

★ひらひらニュース72号に“LA ARBO ...KIU FORKURIS”「木がにげた」について和エス両文での紹介記事が2ページにわたって掲載された。(宮沢 直人)

俳句、ウクライナ語に

ハバロフ スクの男性 文通相手に本贈る

ソ連・ハバロフスク市の男性が、松尾芭蕉の俳句をウクライナ語に訳した俳句集「ボエジー」を発刊、文



星田淳さん

通相手の北海道苫小牧市糸井、苫小牧エスペラント会代表、星田淳さん(左)に贈ってきた。ソ連では日本への関心が高まっているが、市民レベルでも日ソ交流が深まっている。芭蕉の句をウクライナ語に訳したのは珍しい、という。

この人はウクライナ人のゲンナジー・トルコフさん。星田さんはエスペラント仲間の紹介で二、三年前からトルコフさんとエスペラント語で文通を始めた。

俳句集は、縦十五行、横十・五行で、全百九十二。今年六月、ウクライナ共和国の首都、キエフ市の出版社から発行されている。「古池や 蛙飛び込む水の音」などの約七百句をウクライナ語に訳し、季節ごとに分類して紹介。巻末に詳しい注釈を付け、寸、尺など日本の長さの単位や、地名、動植物などの説明を試みている。芭蕉の句を研究したきっかけについて、トルコフさんは句集の中で「川端康成が受賞のあいさつで、日本文学の最高の作品のひとつと紹介した」と述べている。



毎日新聞平成3年11月18日 夕刊 全国版に掲載

Hirahira estas sala kafejo en Sapporo, kie vi povas aĉeti (aŭ peti) librojn pri Esperanta.

Hirahira: ankaŭ estas taŭga loko, kie vi povas havi etan kunsidon.

≡ 本ミ、J E I 同書
取扱い店 ≡

Bonvenon! Esperantistoj

Hirahira estas malfermita en labortagoj de 12a horo ĝis 20a horo, sed fermita en dimanĉo.

Hirahira N18W5, Kitaku, Sapporo, Japanio
t.n. 011/746-2801

Kvankam ŝi estas komencanto, ĉefzorganto de HIRAHIRA povas legi kaj skribi nian lingvon bone, kaj povas paroli iomete. Ŝi bonvenigas ĉiujn esperantistojn per la reklamajo kiun ŝi memfaris. Ĉe HIRAHIRA ankaŭ troviĝas esperanta biblioteko de SAT-ano grupo.

a v i z t a b u l o

エスペラント講習会・学習会

来る者は拒まず、去る者は追わず、去った者も優しく受入れる

★毎週土曜日 午後 1:30~4:30(祝日、5週目は休み)

講師 木村喜壬治、高橋要一

場所 札幌市職員会館(中野通1617、8621-0156)

テキスト GERDA MALAPERIS! による和訳、文法、歌、会話

連絡先 馬場 恵美子(☎761-8060)

★毎週土曜日 午後 1:30~3:30

講師 宮岸忠孝

場所 瀬川カシヤセンター(北区北6西7)ホソコ

テキスト La unua kurso Libro を2課ずつ

初級終了者が中心

連絡先 宮岸 忠孝(☎582-3122)

★月曜日(月2回) 午後1時~4時

講師 木村喜壬治、高橋要一

場所 札幌市職員会館(中野通1617、8621-0156)

テキスト「伊豆の踊子」和訳、会話

連絡先 瀬川 綾子(☎751-2768)

《末永章子さん(札幌)激励会》ご家族の都合により3年の予定でシドニー(オーストラリア)に行かれることとなりました。彼女のしばらくの別れと激励をかねて。

場所：センチュリーロイヤルホテル ティファニー
日時：2月29日午後4時 会費¥2,500
出席希望の方は25日までに馬場に連絡を
☎(011)761-8060 夜間のみ

《北海道合宿》今年度の合宿は、有名講師を現在交渉中。

《津本みはるさん住所》昨年10月結婚された隣
佐藤みはるさん 亀岡市北古世町1丁目15-13

HEL通信

Februaro 1992

北海道エスペラント連盟

編集：〒001 札幌市北区新琴似7条8丁目5-34

馬場恵美子 ☎011(761)8060

郵便振替口座：小樽 0-17075

北海道エスペラント連盟